

やればできる！



目的

1) 海鳥に関係のある問題を認識し評価すること。2) 問題を解決するか、あるいは状況を改善するかという二者択一の方法の提案と評価をすること。3) 問題解決のための企画を引き受けること。4) 自分たちがうまく問題を解決した、あるいは状況を改善した過程を分析し描写すること。

予備知識

このアクティビティーは、生徒が海鳥を救うことができるような地元の状況を認識することを学ぶように作られています。状況は、浜辺のゴミ拾いのような実地体験か、あるいは生徒たちが、どうやって権限者に野生動物のための望ましい方策を実行するように働きかけるかを学ぶ、政治的行動計画のどちらかを含むように設定することができます。

私たちの一人一人が、自分たちが生活している環境を改善するために積極的な貢献をすることができます。時には私たちの行動は人間のための環境改善になりますし、時には野生動物のために環境を改善し、そして時には両方のためになることもあります。他の人々とアイデアや情報、そして技能を出し合って一緒に働けば、

時にはより多くの結果が得られることがあります。次にあげることに関する実際上の知識は、このアクティビティーをする上で生徒に役立つでしょう。

問題：改善すべき難しい状況か、あるいは物事を良くするような機会。問題は必ずしも「解決」はされないが、通常、状況を改善することはできる。

権限者：変化をもたらすことのできる力を持つ個人が一団の人々。

妥協：通常双方の「側」が少しずつ歩み寄って問題を解決する方法

若者にとって、自分たちが人々や野生動物や環境に対して「やればできる」ということを学ぶことは重要だと考えて、このアクティビティーをする過程であなたの判断力を使って、生徒が現実的で、建設的で、実行可能な計画を選択する手助けをしてください。そうでなければ、生徒は自分たちには「やってもできない」という考えを助長するようなアクティビティーを体験することになるかもしれません。このア

クティビティーの主要な目的は、人々と海鳥の環境を改善するために積極的行動をとることで、生徒が成功を体験する機会を提供することなのです。

材料

・筆記用具

手順

1. 生徒に、海鳥の家としての自分の地域を良くする方法をいくつか考えるよう言います。彼らは自分たちの地域における、鳥に悪い影響を及ぼす活動の一覧表を考えるかもしれません。生徒の一覧表は次のものを含んでいなくてはなりません：鳥にとって危険物となるおそれのあるゴミ（釣り糸、魚網、6個詰め容器のリング）・船舶から入ってくる可能性のあるネズミ・人間、犬、野生化した猫、あるいは低空飛行する航空機による妨害・魚網による海鳥の捕獲・川や海の汚染・地元の鳥に関する情報の必要性など。

2. 考えられうる鳥の生息地の問題や、鳥の住処を良くするための方法に関する示唆のリストを見てください。生徒に、実行可能な時間内で現実に建設的なことができると思われるものをその中からひとつ選ぶように言って下さい。もしもなかなか決められなくて、また合理的な助けがすべて提供されていたら、生徒は投票で決めることになるかもしれません。クラスの票の流れを引き寄せることを期待して、自分たちが取り組みたいと思っている問題を支持する演説をしてもよいでしょう。

3. 一度問題が選ばれたら、生徒に、問題に対する可能な解決策や計画を実行する方法について考え始めるのに、ひとりで取り組むか、それとも小グループで取り組むか尋ねましょう。個人個人、またはそれぞれのグループは、どうやってこの企画を成し遂げるか、段階ごとにスケッチと文字で説明したものをともなう計画を考え出せるのではないのでしょうか。

4. グループに、自分たちの計画を他の生徒に発表するように言います。生徒たちはグループに質問をするかもしれません。一度全ての計画が発表されたら、生徒に、最も a) 建設的 b) 現実的 c) 鳥の助けとなる d) 継続的な貢献が続けられそうと思われる計画を選んでもらいま

す。

5. 生徒に、最初に選んだ計画が、学校や村の権限を持つ人々に受け入れられなかった場合を考えて、代案を1つか2つ選ぶように言います。

6. 一度計画が（予備として選んだ代案も含めて）決定されたら、生徒に、学校長もしくは当局の人々に自分たちの計画を提出する代表者を選んでもらいましょう。その中に管理人さんや、庭園の管理人、教育委員会等を含めることを忘れずに。（物理的に、または公務上関係のある人は誰でも含まれます）。生徒や関心を持っている保護者、または他のグループの生徒の前での練習会は役に立つのではないのでしょうか。練習会で生徒の代表者は、学校長（管理人、評議会など）の前で行うために計画している通りに、聴衆からの質問に答えながら、発表をしましょう。

7. 生徒は計画を提出するためにアポイントメントをとったほうがよいでしょう。そして発表を終えたら、クラスメートに報告しましょう。もしも自分たちの計画が受け入れられたら、生徒は企画を成功させるために、次は誰に連絡を取ったら良いか確認しましょう。

8. 必要な許可を全て無事に得たということを確認したら、生徒は自分たちの企画を首尾よく成し遂げるために作業を先に進めたほうがよいでしょう。

9. ひとたび完了させたら、生徒に成果を分析するよう言います。物事は彼らが望んだような結果になったのでしょうか？何か驚くようなことはありましたか？何か思いがけない問題はありましたか？どのようにしたら、もっと効果があったのでしょうか。

海鳥に関係した地域社会事業で可能性のあるもの

・「ゴミバスターズ」計画を始めましょう。海辺のゴミ拾いやゴミ散らかし反対キャンペーンを指揮します。

・地域社会で現在行われているネズミ駆除計画について調べましょう。その計画に手を貸す方法か、あるいはより良いものにする方法を考え出しましょう。

・もやい綱の上で使うもっと良いネズミ捕りをデザインしてみましょう。現在使われているネズミ捕りは、ネズミが海岸から船に移らないようにするには有効ですが、逆もまた同様というわけではありません（ネズミは簡単に綱から飛び降りて岸へ泳ぎ着いてしまいます）。

・どの種類の海鳥が渡りのときにあなたの住む地域を通るのか、どの種類がそこで雛をかえすのか、そしてもしもいるとしたら、どの種類がそこで冬を過ごすのか、異なる季節のデータをまとめてください。生徒たちに、異なる数種類の鳥について、毎春最初に目撃された日付、特定の数種類の植物について、緑に変わったり花を咲かせたりしたことに最初に気づいた日付、異なる数種類の卵が初めて目にされた日付などの観測結果を出させてください。この情報を数年間以上集めて、平均値を計算し、変化をグラフにし比較することができます。

あなたが集めたデータは U.S. Fish and Wildlife Service の役に立つ可能性もあります！もしもあなたがご自分のデータをアラスカ海鳥コロニーカタログデータベースに提供したいと思われるのであれば、データ集めを始める前に、Dr. Vivian Mendenhall（住所略）に連絡を取ってください。彼女があなたの企画立案を手伝ってくれるでしょう。

・海鳥カレンダーを作りましょう。地域の人々の話を聞いたり観察をしたりすれば、いろいろな種類の海鳥について、いつごろ戻って来ていつごろ旅立つのか、いつごろ巣作りをするのかなどがわかります。

・地元でバードウォッチングによい場所と、そこで季節ごとに見られる鳥のタイプを記入した地図

を作りましょう。

・海鳥と海鳥が直面している問題について、地域社会へ情報を提供する機会を作りましょう；リーフレット、ポスター、ビデオテープ、新聞記事、地元の行事での展示など。

・海洋生物と海鳥についての記事を載せた学級新聞を作りましょう。

・手紙か記事を書いて地元の新聞に送り、それが掲載されるように働きかけましょう。

・自分の住む地域の水の利用について調査してみましょう。それはどこから来ていますか？どこへ流れていきますか？どのように使用されているでしょうか？水に何か加えられていますか？また汚水が水の中に排出される前に加えられているものはありますか？汚染はどこで起きるのでしょうか？生徒に個人や家庭、地域での水利用の目録を作らせて、水の利用や汚染を減らすための方法をさぐるブレインストーミングをさせてみましょう。

・地元での海鳥の豊富さと、その用途について調査しましょう。必ずお年寄りや先住民の高齢者を含めて調査し、海鳥の住む場所と利用法がその人たちの生きている間にどのように変化して行ったかを確認するようにしましょう。

応用

進行過程のすべてをドキュメンタリーにしてビデオテープに収めましょう。

翻案： Teach About Geese, U.S. Fish and Wildlife Service